

# 令和元年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和2年2月28日  
札幌市立青葉中学校

- 1 【今年度重点項目】
- 1 生徒の実態に即した創意ある教育課程の編成の充実
  - 2 基本的な生活習慣の定着と規範意識の育成
  - 3 心の教育と安全教育の推進
  - 4 家庭・地域との連携を図った教育活動の充実
  - 5 チーム学校としての取組

## 2 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
教育目標	目指す学校像については、教職員の共通理解が図られ、生徒や家庭、地域にも周知されている。	△	・学校全体で話題を共有できるよう、今までの取組を継続していく。 ・学校便り、HP等を活用し、家庭、地域への周知に努める。 ・小中連携のもと、目指す学校像の共有にも取り組む。	△	△
	学校は、教育活動全般について、生徒や保護者の願いによく応えている。	△	・懇談や学年PTA、各種アンケート等で、保護者の願いに耳を傾けることを継続させる。	△	△
	学校教育目標達成のため、全教職員がそれぞれの役割を自覚し取り組んでいる。	△	・小規模校で仕事分担の量は多くなるが、お互い情報共有して取り組んでいく。	△	△
	重点目標を達成するために、それぞれの教育目標を達成できた。	△	・年度当初、重点目標を確認し、それらを念頭におきながら、それぞれの役割に取り組む。	△	△
	教育活動全般にわたって評価を行い、次年度の計画に生かすようにしている。	△	・学校評価、教職員年度末反省等の結果をしっかりと学年・校務で引き継ぎ、新年度の計画に反映させ、改良を行う。	△	△
学校関係者評価者による意見	・年度始めに設定した目標に対し、1年間努力を継続させ、成果・達成につなげている今の姿勢を今後も継続させてもらいたい。				
学習・進路指導	各教科の指導内容について、準備を怠ることなく、計画的に教材の精選・工夫を行っている。	△	・新指導要領の問題解決学習への取組等、新しい内容にも積極的に取り組み、今まで通り研修に努める。IT機器の効果的な活用の研修も更に継続させる。	△	△
	問題解決的な学習指導により、自ら学ぶ力や思考力を身に付けるよう工夫している。	△	・積極的な活用により、生徒の学ぶ力や思考力の向上につなげていく。場面をより多く設け、成果の交流などを行う。	△	△
	グループ指導、TTの導入、地域人材の活用、参加体験型の学習など分かる授業を目指し、指導方法の工夫・改善を行っている。	△	・現在導入されているTT、ALTのより効果的な活用に関して、研修を継続させる。 ・地域人材等、現状の把握に努め、活用につなげていく。	△	△
	基礎学力の定着を図るための取り組みを、教職員の協働体制のもとで行っている。	△	・念頭におき学習指導にあたっている現在の取組を継続させ、成果につなげていく。	△	△
	生徒が将来の進路や生き方について考えるための支援や工夫を設けるようにしている。	△	・現在実施されている「総合的な学習」のキャリア教育を継続させ、生徒の将来の展望等へつなげていく。	△	△
学校関係者評価者による意見	・青葉中の特徴である生徒人数の少なさを長所として生かせるような研修を継続させ、具体的な活動を進めていってもらいたい。				
生徒指導	生徒が命の大切さや社会のルールを身につけることができるよう、適切な指導を行っている。	△	・道徳などあらゆる機会を通じて、指導を行っていく。	△	△
	教育相談体制が整っており、生徒は、担任以外の教員とも気軽に相談することができる。	△	・相談期間の活用に加え、日頃から意識している「対話しやすい雰囲気づくり」を継続させ、積極的なはたらきかけを行っていく。	△	△
	様々な問題行動の防止のための早期発見・早期指導に心がけている。	△	・生徒の様子観察、そして教員間の情報共有で、早期発見、早期指導を心がけていく。	△	△
学校関係者評価者による意見	・日頃の挨拶や来校時の雰囲気から、学校内外での躰が徹底されていることが伺える。今後も快い挨拶が続き、行事等で、秩序ある活発な姿が見られるよう、指導を継続させてもらいたい。				

生徒会・健康安・全部指導	生徒にとって魅力ある学校行事にするために、工夫・改善を行っている。	A	・行事後の反省アンケートの集約結果を次年度の大綱案に反映させ、工夫・改善につなげる。	A	A
	生徒会活動や委員会活動が活発に行われている。	A	・放課後の限られた活動になるが、時間の計画的な活用に努め、現在の活発な雰囲気を持続させていく。	A	A
	部活動等で生徒が達成感を得られるよう、活動内容を工夫している。	A	・毎年人員等で苦慮する部分はあるが、限られた状況の中で、現在の状況を継続させることができるよう努めていく。	A	A
	生徒自身が自分の心身の健康管理をできるように、指導助言している。	A	・保健便り、委員会活動、授業と連動させて、健康管理にあたっていきたい。	A	A
学校関係者評価者による意見	・先生方の指導のもと、行事、部活動等で、生徒たちも一生懸命努力する姿が随所にみられた。				
学校運営	自分の意見が、学校運営に反映されている。	A	・日頃からの意見交流を大切にしていく。	A	A
	職員の適性を生かした校内人事や分掌の分担がなされている。	A	・負担が偏らないような分担を意識していく。働き方改革を意識し、配慮を怠らないようにする。	A	A
	職員会議をはじめ各種会議が、情報交換・共通理解・課題検討の場として有効に機能している。	A	・これまで同様会議の精選に努め、意義ある会議・研修会を行うことに努める。	A	A
	生徒・教職員の個人情報や公文書に対する管理が適正に行われている。	A	・個人情報の取扱確認や情報管理のマニュアルの確認を徹底させる。	A	A
	事件、事故、災害等に対して、迅速かつ適正に対処できるよう、自分の役割分担が分かっている。	A	・年度当初の対策マニュアルの周知、避難訓練時の確認等、これまでの対策を徹底、継続させる。	A	A
学校関係者評価者による意見	・日頃より、学校長を中心に教職員の意見を尊重している様子が、様々な場面で見ることができた。				
研修	課題の設定が明確で目的意識をもった研修が行われている。	A	・3カ年の課題の最終年。成果と反省をしっかりと検討し、新課題の設定につなげる。	A	A
	観点別評価や絶対評価のあり方について、共通理解が図られている。	A	・これまで同様研修を継続させ、適切な指導・評価に努める。	A	A
	教員間での授業の見学や検討、研究・研修の結果を伝え合ったりする機会は十分である。	A	・これまで同様、教員間での授業参観交流、校内研修会を活用し、授業研究を継続させる。	A	A
学校関係者評価者による意見	・青葉小・上野幌小・青葉中、3校による小中連携で何度も研修会をもたれたとのこと。子供たちのために成果につなげてもらいたい。加えて、特別支援学級への理解を深めることなども行ってもらいたい。				
施設・設備	学校の施設・設備をはじめとした教育環境は、満足できる状態である。	B	・老朽化により改修の要望が多い。特にトイレへの要望はアンケートでも多かった。委員会への改修要望を継続させる。	A	A
	各教科の備品や教材教具を十分活用している。	A	・教材教具、特に情報に関わる部分での研修は今後も継続させていく。	A	A
	コンピュータ等の情報機器を、授業で積極的に活用している。	A	・教科での積極的な活用が増えている。機器の常設等、活用のしやすさに関して取り組んでいく。	A	A
学校関係者評価者による意見	・校舎施設としては、震災にかかわっては避難所としての評価は高い。要望の多いトイレの改修については、改修要求を継続させ、できるだけ早い改修を望む。				
保護者・地域の連携	生活指導において、家庭と緊密な連携を取っている。	A	・これまでの家庭との近い距離感を大切に、連携を継続させる。	A	A
	地域や近隣の小学校などと積極的に交流やふれあいをもつようになっている。	A	・小中一貫推進モデル校の取組のもと、積極的な取組が行えた年だった。指定が外れる次年度以降もこれまでの取組をできる限り継続させ、生徒へ還元していきたい。	A	A
学校関係者評価者による意見	・これまでの活動の継続と、青葉・上野幌地域として小中一貫を念頭に小中連携の推進を目指してもらいたい。地域のお祭りへの参加など地域を明るくする運動や、ボランティア活動への、これまで同様の積極的な参加を望む。				